

# 短時間通所リハビリテーション 利用者の1年間のADL変化

医療法人社団らぽーる新潟  
ゆきよしクリニック

高野 友美（作業療法士）  
荻莊 則幸（医師）  
大越 満（作業療法士）  
清水 美穂（作業療法士）  
加藤 拓（理学療法士）  
遠山 茜（相談員）

# はじめに

当院の短時間通所リハビリテーション（以下、通所リハ）が始まり1年が経過した。自宅でのADLに反映できるプログラムを実施するために現在と利用開始時（約1年前）のADL状況を聴取し、利用者の1年間のADLの変化について調査した。

# 対象

当院通所リハを1年以上利用されている方24名を対象とした。

男性:11名 女性:13名

年齢:52歳~83歳

(平均年齢71.8歳)

疾患

脳血管疾患:16名

整形外科疾患:5名

その他の疾患:3名

介護度

介護度	人数
要支援1	2名
要支援2	10名
要介護1	3名
要介護2	2名
要介護3	0名
要介護4	3名
要介護5	4名

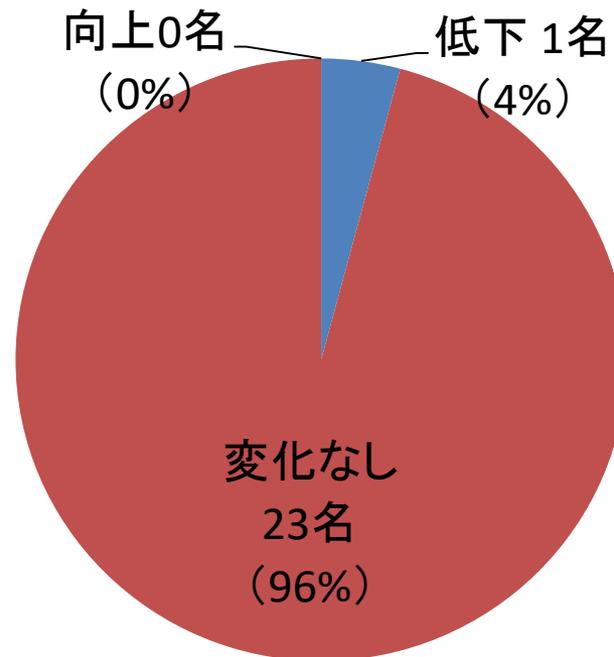
# 方法

現在のADL状況と利用開始時のADL状況を聴取し、Barthel Index(以下、BI)で点数化した。合わせて、BIの10項目ごとに利用開始時から変化があったと利用者自身が感じている点を聴取した。なお、利用開始時のADL状況とは、約1年前を振り返って、そのADL状況を述べてもらった。

次いで通所リハに対する満足度を主観的に100点満点で表現してもらった。

# 結果一①

【現在と利用開始時のBIの変化】 n=24



BIの点数が変化なし23名、低下1名、向上0名であった。

# 結果②～④

利用者氏名	食事	椅子～ベッド	整容	トイレ動作	入浴	平地歩行	階段昇降	更衣	排便コントロール	排尿コントロール	合計	満足度	
6	10	15		5	10	5	15	10	10	10	10	100	100
		腹筋を使って起きている			立位で脱衣をする。無理しないでつかまるところがある場所でやるように言われた。		先を見て歩く。人込みに気をつける。右手に力を入れないうちに意識している。						
7	10	15		5	10	5	15	10	10	10	10	100	100
8	10	15		5	10	5	15	10	10	10	10	100	100
	口まで運ぶ時にこぼす回数減った。タスキをしてお魚を食べると手が抜けそうにならなかった。				脱衣所～浴室まで滑る不安が無くなった。		歩いている時にパタパタ足音がしなくなった。足底をしっかりつくように意識している。		足の力をつけるために手すりにつかまらないで歩くこともある。				
9	10	15		5	10	5	15	5	10	10	10	95	80
10	10	15		5	10	0	15	10	10	10	10	95	100
11	10	15		5	10	5	15	10	10	10	5	95	70
	口に運ぶとスプーンがひっくり返りそうになる。前よりはいいかも。				手洗いが楽になった気がする。手が伸びやすくなったような動きがよくなったような。		前より足が動く。歩きやすくなった。腰の痛みは強くなったけど。		腰の痛みが強くなって大変になった。				

※今回は利用者自身に変化したと感じ、語ったポジティブな言葉に着目して結果をまとめた。

## 結果一②

【BI点数に変化はないが主観的変化を語った利用者数】

23名中14名(60.9%)

【BI100点の利用者の中で主観的変化を語った利用者数】

通所リハ開始時と現在のBIが100点の利用者は24名中8名であった。  
この8名の内、BI項目で変化を語った利用者は5名であった。

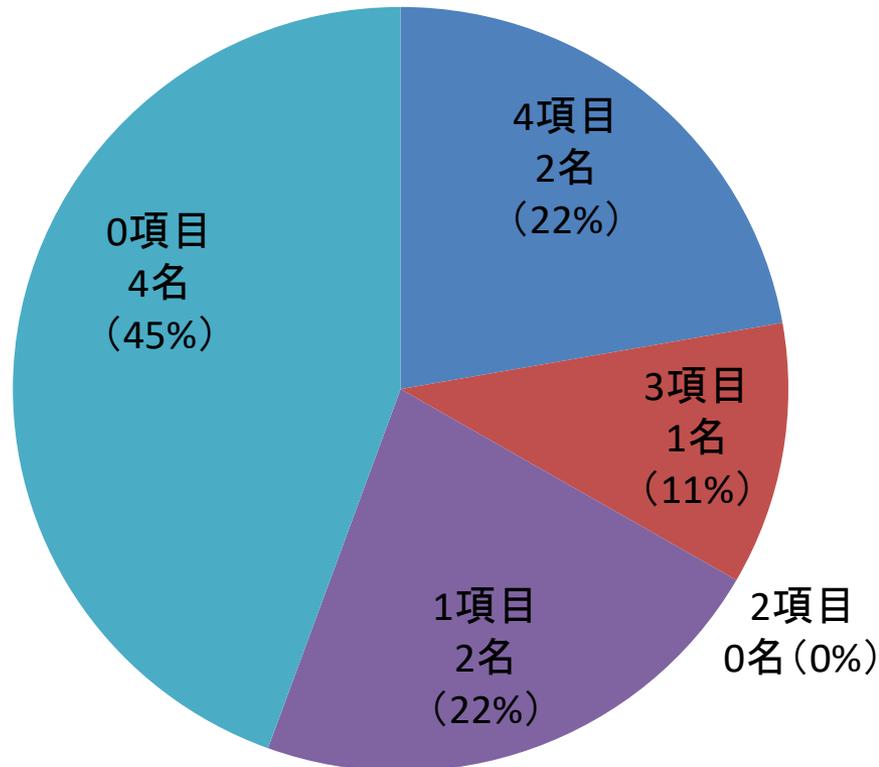
- 内容
- ・(階段昇降時)なるべく右足から下りるように意識している。
  - ・(歩くときに)右手に力を入れないように意識している。
  - ・口まで運ぶ時にこぼす回数減った。タスキをしてお魚を食べると手が抜けそう(なくらい)に(痛く)ならなくなった。脱衣所から浴室まで滑る不安が無くなった。歩いている時にパタパタ足音がしなくなった。足底をしっかりとつくように意識している。

など

# 結果一③

【満足度100点の利用者が語った主観的変化のBI項目数】

通所リハの満足度が100点の利用者9名が変化したと感じ、語ったBI項目数



# 結果一④

## 【主観的変化を語った利用者数とBI項目】

全利用者のうち、BI項目で変化を感じ、語った利用者は14名であった。そして、より多く聴取されたBI項目は「平地歩行」「階段昇降」であった。

### 平地歩行内容

- ・急いで歩かないように意識している。
- ・左足にも重心をもっていくようにしている。
- ・前より足が動く。歩きやすくなった。                      など

### 階段昇降内容

- ・足の力をつけるために、手すりにつかまらないうで歩くこともある。
- ・足の出す順番を意識している。
- ・恐怖心が少なくなった。
- ・玄関に手すりがついて助かっている。                      など

# 考察一①

利用者自身が振りかえって述べているため、本来の約1年前の状況と食い違っているとも考えられる。しかし、中島は「患者は評価時、内的判断基準を変える可能性にあり、治療介入により過去の状態を悪いと再評価するようになり、結果的によい治療介入効果と認識したという解釈となる」と述べている。

- ➡現在の状態が開始時の状態と同じという今回の結果は、良い状態を維持できているのではないかと考える。
- ➡通所リハビリが良い状態を維持できている一因になっている可能性が考えられた。

## 考察一②

- ・BI項目でポジティブな言葉がより多く聴取された利用者の満足度が高い傾向を示した。
- ・BIの点数に変化がない利用者からもポジティブな言葉が聴取された。

➡“しているADL”の質の向上が図られたものとして考えられた。

利用者に満足して利用していただくために、自宅でのADLを把握した上での介入が必要と考える。